



「見たり、聞いたり、探ったり」No.269

通算 No.420

青 木 行 雄

「安倍元首相」

銃撃事件の衝撃 (2022年(令和4)7月8日)

「安倍元首相、撃たれ死亡」の見出しで7月9日各新聞の一面トップに記載され、8日には号外も何紙か、発行された。

奈良市西大寺東町の近鉄大和西大寺駅前にて、2022年(令和4)7月8日(金)午前11時半頃の出来事であった。



奈良西大寺駅前にて街頭演説を始めたばかりの安倍元首相の姿

参院選の応援で街頭演説をこの駅前で始めたばかりの安倍晋三元首相(67)が銃撃された。安倍氏は首などから血を流して倒れ、心肺停止状態のままドクターヘリにて県立病院に搬送され、同日午後5時3分に死亡が確認され帰らぬ人となった。

奈良県警は殺人未遂容疑で、奈良市大宮町に住む無職の山上徹也容疑者(41)を現行犯逮捕し、殺人容疑に切り替え取調べを行った。

1932年(昭和7)に海軍の青年将校らが犬養毅首相を殺害した「5・15事件」などがあったが、戦後、首相経験者が殺害された大事件がまた1件歴史上にきざまれた。

政府関係者によると、山上容疑者は2005年(平成17)まで3年間、任期付きの自衛官として海上自衛隊に勤務していた隊員だったという。

奈良県警は同日夜、捜査本部を設置した。山上容疑者が「特定の団体に恨みがあり、安倍元首相がこれとつながりがあると思い込んで犯行におよんだ」と供述していると明らかにした。犯行に使われたのは手製の銃で、自宅から数丁の手製の銃のようなものを押収したと発表があった。

県警は山上容疑者の自宅などを家宅搜索、自宅からは爆発物の可能性があるものも見つかったとして付近住民に一時避難を呼びかけたようである。

安倍氏の演説が始まって数分後、斜め後方にいた山上容疑者が安倍氏に近づき、背後から銃撃した。最初1発目の音でふりむいた所に2発目が安倍氏の右首に当たったと思われ、出血の傷があるという、左胸の皮下出血も確認された。

安倍氏は8日の最初の遊説先に長野県を訪れる予定だったが、7日午後に急遽変更して奈良での演説となったようである。この変更が運命の分かれ道となった。



演説が始まって、1発目の銃声後、横をむいた姿。この後2発目で倒れた



山上容疑者が使用した手製の銃と本人



奈良県警に取りおさえられた山上容疑者

安倍氏は1993年（平成5）の衆院選で初当選、当選10回、官房長官や自民党幹事長などを歴任し、2006年（平成18）9月第90代首相に就任した。2012年（平成24）12月の第二次内閣発足から約7年8ヶ月にわたり歴代最長政権を築いた実績は実に大きい。



トランプ前大統領と安倍元首相



プーチン大統領と安倍元首相

山上徹也容疑者(41)について

山上は建設会社を営む父と母の次男として生まれ兄と妹を含めた5人で生活していた。

山上が幼い頃に父が急死し、母が会社を引き継いだ、母は宗教団体の活動に熱心になり、多額の金を納めるようになった。そして間もなく会社は破産する。

山上は、奈良県内の高校を卒業後、専門学校に進み、2002年(平成14)に海上自衛隊に入隊した、生活に困ったので入隊したようである。

山上は自分で銃や火薬までネット等で調べて作ったようだ。母の入信の宗教団体を家庭崩壊の理由にずっと恨み続けていたと思われる。

山上は大阪府内の人材派遣会社に登録し、派遣社員として京都府内の工場で働いていたが4月退職を申し出て、今年の5月15日に退社、以降は収入はなかった、母親が入会していた宗教団体、旧統一教会を憎んでいた。

※ 首相経験者も含め政治家が襲われた事件は戦前から、かなりの件数にのぼる、調べて見た。

※ 1909年(明治42)初代首相の伊藤博文は安重根に銃撃されて死亡している。

※ 1921年(大正10)11月、原敬首相が東京駅で、大塚駅職員の中岡良一に刺されて死亡した。

昭和に入りテロ事件は激化していった。

※ 1930年(昭和5)11月、浜口雄幸首相が東京駅で銃で撃たれた後、翌年死亡している。

※ 1932年(昭和7)5月、5・15事件が起きる。海軍青年将校らが決起し、首相官邸や警視庁などを襲撃し、犬養毅首相を殺害した。

※ 1936年(昭和11)2月、2・26事件で、陸軍青年将校ら約1,400人がクーデターを企て、高橋是清蔵相らを殺害、軍国主義へと大きく傾いていった。

※ 1960年(昭和35)日米安保条約改定を巡り政治対立が激化した折、岸信介首相が首相官邸で右翼の男に短刀で刺され重傷を負う。

そして浅沼稻次郎・社会党委員長が演説中に刺されて死亡した。

※ 1990年(平成2)には本島等・長崎市長が右翼団体幹部に撃たれて重傷うける。

※ 1992年(平成4)、金丸信・自民党副総裁が栃木県足利市で演説中に襲われ、拳銃の弾は外れ負傷を

まぬかれた。

※ 2006年(平成18)8月自民党の加藤紘一衆院議員の実家と事務所が放火され、全焼した。

※ 2007年(平成19)4月、伊藤一長・長崎市長が選挙事務所前で待ち伏せしていた暴力団幹部の男に背後から拳銃で撃たれ、死亡した。

等々の事件が発生している。

安倍晋三元首相の通夜と葬儀について、

7月11日、東京都港区の増上寺において、通夜が営まれた。岸田文雄首相や菅義偉前首相、麻生太郎・自民党副総裁など国会議員のほか、経済人や文化人約2,500人が焼香に訪れたという、なかに弔問に訪れた、米国のエマニュエル駐日大使、イエレン米財務長官ほか各国大使、フジサンケイグループの日枝久代表、トヨタ自動車の豊田章男社長、楽天グループの三木谷浩史会長兼社長など社長の面々も多数弔問されたようである。

宮内庁は11日、安倍氏の通夜に先立ち、天皇、皇后両陛下が侍従を通じ、通夜会場の増上寺に生花などを贈ったと発表した。侍従が焼香したという。

同庁の池田憲治次長は同日の定例会見で、両陛下について「突然の訃報に接し、大変残念に思い、心を痛めておられ、ご遺族の皆様の悲しみを案じていらっしゃるのではないかと拝察している」と述べた。上皇ご夫妻についても「お悔やみのお気持ちを」とのべ。安倍氏が首相として取り組んだ退位特例法の制定や代替わりの一連の儀式などを挙げ、「円滑な実施にご尽力をいただき、国民を代表して儀式に臨まれてこられた。感謝を申し上げ、逝去にあたりご冥福をお祈りしたい」と語ったと記されていた。

引き続きこの芝公園の増上寺で12日葬儀が営まれた。

妻の昭恵さん(60)が喪主を務め、凶弾に倒れた夫が搬送された奈良県内の病院で対面した際「手を握り返してくれたような気がした」と語った。葬儀の後には棺を乗せた車が国会周辺を回り、長年政治活動の舞台としたゆかりの地に別れを告げた。後日東京と地元の山口でお別れの会を開く。

喪主の昭恵夫人は挨拶で「まだ夢を見ているようです。主人は政治家としてやり残したことはたくさんあったと思いますが、本人なりの春夏秋冬を過ごし種をいっぱいまきました。それが芽吹くことでしょう」と涙ながらに話したという。

7月12日の葬儀は家族葬として執り行い、岸田文雄首相(64)、森喜朗元首相(84)ら約200人が参列、約1,000人が焼香、会場には、安倍氏がピアノで東日本大震災の復興支援ソング「花は咲く」を演奏し、昭恵夫人が歌う映像も流されたという。

昭恵夫人は憔悴^{しょうすい}した様子だったが、参列者を1人1人丁寧に頭を下げむかえられた。天真らんまんな言動をとがめることなく、見守り、かばってくれた夫。「主人のおかげでいろいろなことを経験できた。凄く感謝している。いつも私のことを守ってくれた」このようなことも語ったという。

棺に遺族らが花を入れる際、安倍氏の顔に頬^{ほお}ずりしながら、数分間にわたって号泣していたようであったと記されていた。

安倍氏の父親で外相などを務めた晋太郎氏は闘病の末、同じ67歳で他界している。その後を継ぎ、安倍氏は1993年(平成5)に初当選した。2006年(平成18)に戦後生まれの宰相となり、在職日数は通算3,188日、連続2,822日でいずれも憲政史上最長であった。

葬儀後、安倍氏の棺を乗せた車を含む葬列車は自民党本部、衆院議員会館前、首相官邸、国会議事堂と政治家として活躍した思い出の地を巡りお別れをした。その後、都内の斎場^{だび}で荼毘に付され、天国へ旅立った。



通夜と葬儀場に使用した、芝の増上寺



葬儀の日お別れに国会議事堂前を通る前の議員達の列

安倍元首相の献花&記帳に参列してきた。

7月11日夜、芝の増上寺で通夜が執り行こなわれ、岸田首相を始め大勢の人が焼香され一般の方も献花に参加した。12日の葬儀も多くの方の献花もあったがようだが12時30分に多すぎて一般献花の受け付けを終了したようだ。8日の事件以来、重苦しい雰囲気が続いており、私も献花と記帳に行きたいと思っていたが、増上寺には行けなかったので、「自民党本部」の永田町に13日午後2時頃参上して来た。400～500m程の行列だったが30分程で



自民党本部での献花を受ける台、雨の日のテントの中

献花と記帳が出来た。

自民党大会にも4～5回参加し、「桜を見る会」にも招待を受け、問題はあったものの、参加者の為に走りながら、サービスに励んでいた安倍元首相の顔が今も目にうかぶ。

献花の参加者は半分以上が女性で意外と若い人の多いのにはおどろいた。そして献花の花が高級品だったのにも。となりに北海道からわざわざ献花のために来た女性がいた。

全国の献花先は安倍氏卒業の学校や自民連、山口の事務所、御殿場の旧岸邸なども受け付けていたという。方々の献花先をまとめると、すぐに、1,000万人以上になったとニュースで報道していた。



自民党本部で献花の列、500m ぐらいか



献花場のテントの中、30分程かかった

戦後の主な首相経験者の葬儀形式を見ると。(就任順)

吉 田 茂〔1967年(昭和42)10月死去〕 国葬

鳩 山 一 郎〔1959年(昭和34)3月死去〕 内閣・自民党合同葬

岸 信 介〔1987年(昭和62)8月死去〕 内閣・自民党合同葬

池 田 勇 人〔1965年(昭和40)8月死去〕 自民党葬

佐 藤 栄 作〔1975年(昭和50)6月死去〕 国民葬

田 中 角 栄〔1993年(平成5)12月死去〕 自民党・田中家合同

福 田 赳 夫〔1995年(平成7)7月死去〕 内閣・自民党合同葬

大 平 正 芳〔1980年(昭和55)6月死去〕 内閣・自民党合同葬

中曾根康弘〔2019年(令和元)11月死去〕 内閣・自民党合同葬

竹 下 登〔2000年(平成12)6月死去〕 島根県掛合町(当時)自民党島根県連・竹下家合同葬

宮 沢 喜 一〔2007年(平成19)6月死去〕 内閣・自民党合同葬

橋本龍太郎〔2006年(平成18)7月死去〕 内閣・自民党合同葬

小 渕 恵 三〔2000年(平成12)5月死去〕 内閣・自民党合同葬

安 倍 晋 三〔2022年(令和4)7月死去〕 国葬(9月27日に決定)

安倍晋三元首相への想い。

2019年(令和元)5月場所にトランプ前米大統領を両国の国技館に招待し、花々しく優勝力士にトランプ氏と安倍氏は優勝賜杯を感動しながら手渡した笑顔は、今となっては安倍外交の山場だったのかも知れない、新宿御苑での「桜を見る会」も問題はあったものの自分を支持する自民党の面々をはじめ、全国の党員や受賞者等が一堂に会した中を、走り回りながら、お礼やはげましの挨拶をする光景は何んとも言いようのない満足感にあふれていたように見えた。(写真はつかれている顔に見える)あの笑顔は2度と見ることは出来ない。

生前、1ヶ月程前、父晋太郎氏が病没した67歳という年齢を強く意識して人に話したというのが因縁か運命か、67歳の同年で他界した安倍晋三氏。

実に、残念である。衝撃は日本だけでなく、世界中にひろまった。本人への批判をする人もいるが、この衝撃につつしんで御冥福をお祈り申し上げます。



「桜を見る会」の時の安倍元首相、場内を走り回り、参加者に挨拶した



2019年(令和元)トランプ大統領を招待し、5月場所の千秋楽に優勝杯を渡し、祝福する安倍首相(当時)の満足そうな顔

2022年7月23日 記

参考資料

日経新聞、サンケイ、朝日新聞
読売新聞、NHK、TBS、日本テレビ